



大逆事件を学ぶ

新宮フィールドワーク

全国から参加者多数。もう一度、新宮に

和歌山県水戸社創立90周年記念した「第27回人権啓発研究集会・第13回和歌山・人権啓発研究集会」の新宮フィールドワーク「新宮地区訪問」と大逆事件を学ぶ」を2月1日におこなった。

フィールドワークには全国から36人が参加し、熊野大権現速玉大社の境内にある佐藤春夫記念館からスタートした。企画展「佐藤春夫から中上健次へ」熊野と「近代文化」100年―中上健次没後20年―を見学し、辻本雄一・館長から中上健次の視点からみた新宮の部落や大逆事件について学んだ。

次に南谷墓地で大逆事件の犠牲となった峰尾節堂・大石誠之助・高木顕明の墓を「大逆事件の犠牲者を顕彰する会」でボランティアガイドをつとめる栗林確さんより説明があった。栗林さんは「この事件は明治政府の思想弾圧事件であり、新宮の犠牲者は全

今に残る 女人結界



神倉神社で

員えん罪だ。彼らは、この地の平和・人権・博愛運動の先駆けであった」と説明した。

神倉神社にある「禁殺生穢悪」と刻まれた結界石を見学し、中心部に位置する春日隣保館で、熊野地方のお昼の定番名物「めはりずし」と女性部手作りの「豚汁」でしばしの休息と交流の場をもうけた。

午後から、田岡実千年・新宮市長、楠本秀一・教育長、支部を代表して稗田明・副支部長があいさつし、中上清之・書記次長が「新宮市の部落学習」と題して、部落の移り変わりや差別事件の現状ととりくみ、

顕彰碑を見学

子ども会活動を紹介した。



「大逆事件犠牲者の顕彰碑」を見学

春日地区を歩いて視察。同地区に建てられている「大逆事件犠牲者の顕彰碑」や西村伊作記念館を見学したのち、浄泉寺に移動。浄泉寺は大逆事件の犠牲者の高木顕明が住職を務めていた寺で、山口範之・現住職は「事件後に本山は高木師の僧籍を剥奪したが1996年に擯斥(※)を取り消し復権させた。高木師は貧しい部落の人からはお布施はもらえないと、マツサージをして生計をたて、寺で部落の子どもたちに『よみかき』を教えるなどしていた。高木師が投獄されたあとは当寺も国賊の寺と言われ大変苦勞したが、地区の方に支えてもらった」と高木顕明さんの活動やエピソードが話された。

連載 (19)

「吾々は市政といかに闘うか」 —オール・ロマンス差別糾弾要項—

部落の失業者はますますすふえていく。部落の失業者の唯一の生活手段である自由労働者の就業日数はいよいよ少なくなつた。スローガンに失業対策をうち出し、勤労市民の支持を得て公選された高山市長は、もはや失業対策を投げ出してしまひ、公然と自由労働者をモップだと称して敵にまわそうとしている。円山事件はもちろ

ん、現場に、特高上りの査察班をいれるなど、その警察政策は堂にいつている。自己の政策の貧困がもたらした結果であることを意識せず、すべて自由労働者が暴力化したとデマつている。その自由労働者が暴力化したとデマつている。その自由労働者は月半分働けないでいるのだ。婦人労働者にいたっては、失業保険の資格がとれる条件さえみ

たされないでいるのだ。高山市政はここにいたって、その一切の差別行政をつうじて、計画的に勤労市民を分裂させようとしているばかりでなく、更にモップとして、部落民を警察力のじゅうりんするところに任せようとしている。これからのやりかたは高山市政がついに、日本の衛生行政が、その差別性ゆえに追求されることを意味する。衛生行政の責任が追求される日は、即ち土木水道その他一切の市政における差別性がその責任を追求される日でなければならぬ。かくして高山市長そのものが問題となる。高山市長はたゞちにつぎのことを行なわねばならない。

(次号につづく)